

「新しい図書館を考える町民ワークショップ」における参加者からの意見及びその回答

意見	回答
機能面について	
1 現在の蔵書が5万冊を越えているのに、開架4万、閉架1万では、今後に対応できない。	新図書館の規模は、雄武町図書館を考える会からの提言内容を踏まえ、過度な規模とならないよう、雄武町図書館整備基本計画において「開架4万冊、閉架1万冊」と設定したところです。 現在の蔵書数は5万冊を越えていますが、新図書館への移転に際し、除籍等により蔵書の整理を行うことから、新館オープン時の蔵書冊数は5万冊以内となる見込みです。 また、新図書館の蔵書収容能力は、将来の冊数の増を見越して、開架約44,300冊、閉架約17,900冊の計62,200冊とします。
2 バリアフリー対応を。	新図書館は、バリアフリー新法（高齢者、障がい者等の移動等の円滑化の促進に関する法律）の特別特定建築物に該当することから、高齢者や障がい者も安心して利用できるよう、バリアフリー化を含む適切な施設環境を整備します。
3 お話の部屋の壁側に収納階段を。	施設の南東角に、収納階段形式の「本の森」を設置します。
4 魚の水槽が欲しい。	整備や維持管理に係るコストを考慮すると、大規模な水槽の設置は困難ですが、小規模な水槽の設置については、今後の運営の中で検討します。
5 動物と一緒に遊べる場所。	図書館は不特定多数が利用する公共施設であることから、施設内及びその周辺で動物を飼うことは困難ですのでご理解願います。
6 ハンモックが欲しい。 かわいい図書館にして欲しい。	ハンモックを設置する予定はありませんが、児童書コーナーの内装デザインについては、子どもに親しまれるものとなるよう努めます。
7 書架の横にも腰かけるものが欲しい。	設置可能な場所には、可能な限り椅子等を設置するよう努めます。ただし、場所によっては郷土資料の展示ケースを設置するため、椅子等を置けない書架も生じますので、ご理解願います。
8 飲食の提供は自動販売機で良いのでは。	カフェカウンターは、利用者が持参したものも飲んだり、ボランティアが来館者に飲物を提供する場所としての利用を想定していますが、飲物の主たる提供方法は自動販売機によるものと考えています。
9 コーヒーサーバーや自販機が欲しい。	どちらも館内に整備する予定です。
10 授乳室でお湯がわかせる設備とベッドを。	授乳室には、給湯設備とベビーベッド、授乳用のソファを整備します。
11 読書通帳を作って欲しい。	限られた予算内で備品を整備する必要があることから、読書通帳機の導入はお約束できませんが、読書通帳の有用性は認識しておりますので、導入に向けて努力します。

「新しい図書館を考える町民ワークショップ」における参加者からの意見及びその回答

	意見	回答
12	施設全体ではなく、一部にBGMが流れる場所が欲しい。	BGMの導入については、関係者間で協議しましたが、要・不要の意見が分かれるものであり、また、設備の導入に高額を要することから、見送ることとしましたのでご理解願います。
13	子どものカバンなどを入れる荷物棚が欲しい。	児童書コーナーに設置します。
14	クーラーが欲しい。	本町の気候を考慮すると、クーラーが必要となる日数は限られることから、全館をカバーする冷房設備の設置は困難ですが、多目的室やおはなしの部屋等、一部の部屋にパッケージエアコンを導入します。
ゾーニングについて		
15	本を静かに読んだり、学習するスペースと、談話コーナーが一緒になっている。	新図書館は、限られた職員数で運営する必要があることと、開放感を確保するため、死角が極力生じないようにワンフロア構造としています。それに伴う音の問題については、静かな場所と賑やかな場所のゾーン分け、内装や設備等で対応することとしています。
16	調べものができる静かなところを。	新図書館は、誰もが集える場所となることを目指していることから、静けさを最重視した施設にはなりません。静かに読書や学習をしたい人の要望にも応えられるよう努めます。
17	談話コーナーは端でも良い。	新図書館は、様々な人が集う交流の場となることを目指していることから、その役割を担う談話コーナーを建物の中心に配置しています。 話し声の問題については、上記回答のとおり対応します。
18	郷土資料展示スペースが広いのでは？	町民の皆様には雄武町の歴史を知っていただくため、郷土資料の展示スペースとして必要最低限の面積を確保する必要があります。
19	郷土資料展示スペースがもったいない。上から吊るすなど工夫を。	蔵書5万冊の図書館の場合、延床面積は1,000㎡前後が一般的ですが、新図書館における郷土資料展示スペースは、延床面積1,300㎡のうち130～150㎡程度であり、「郷土資料展示のために図書館部分の面積を制限した」ということはございませんので、ご理解願います。
20	郷土資料のデータ化、上の空間利用。	また、郷土資料はその保存も考慮して、可能な限りデジタルアーカイヴ化する方針です。
21	郷土資料の展示の位置を工夫して欲しい。	
22	入口から一番遠い位置に児童図書コーナーがあることが気になる。	子どもがたてる音の問題や、本の森は壁面を利用した配置にする必要があったことから、児童図書コーナーを建物海側に配置したところ。幌内側玄関からは距離がありますが、沢木側玄関からは近い位置に配置されています。
23	多目的室と談話コーナーが、狭い気がします。	多目的室の面積は約120㎡(町民センター2階会議室とほぼ同じ)で、約30～40人を収容可能です。より多くの人が集まる催し物等を行う際には、近隣施設との機能連携という観点から、町民センターを活用することを前提としています。 談話コーナーは、約50㎡の面積に約10～15席を用意する予定で、適正な規模と考えています。

「新しい図書館を考える町民ワークショップ」における参加者からの意見及びその回答

	意見	回答
24	閲覧コーナー(海の見えるコーナー)の中二階化。	基本設計初期段階で中二階の設置について検討しましたが、コストと法令上の制約により困難との結論に達しました。 代わりに、一般図書コーナー及び閲覧席のうち、幌内側の床を45cm高くし、オホーツク海への展望を確保しています。
25	カフェ・読書ができる中二階を作る。	
26	靴を脱いで、ゆったりくつろげるスペースの増を。子どもは靴を脱いで、転がって読みたがる。	おはなしの部屋は、靴を脱いで入る場所とし、読み聞かせ等による利用が無い時間帯は、子どもに開放します。また、本の家や本の森及びその内部も靴を脱いで入る場所とする予定です。
27	ネット環境の整備、タブレット、そのための部屋。	館内にインターネットに接続されたパソコンを整備する他、利用者の持ち込みパソコン・タブレット用にフリーWi-Fiを用意します。
28	駐車場からの動線を考えると、副玄関からの出入りが多いので、こちらが主玄関になるのでは。	二つの玄関を区別するため「主玄関」「副玄関」と表記していましたが、両玄関に機能上の差異はありません。誤解を招くことから、今後は「幌内側玄関」「沢木側玄関」と表記を改めます。
29	主玄関を一般駐車場側にしたほうがいい。	
30	子ども(学生)用小部屋。	子どもが自由に過ごせるスペースとして、本の森、本の家、おはなしの部屋を用意してある他、小中学生や高校生を含むグループ学習用の部屋として、グループ学習室を用意してあります。
31	お料理教室ができるミニキッチン。	カフェカウンターに給湯設備と簡易な調理器具を設置する予定ですので、簡単な料理を作る小規模な教室程度であれば対応可能と考えています。
32	カウンターの前に子ども達が雑談できる広さが欲しい。	カウンター前には新聞雑誌コーナーと新刊・企画展示コーナーが配置されることから、子どもに特化した談話スペースの確保は困難です。 ただし、談話スペースは子どもの利用も可能ですし、児童書コーナーに配置してある椅子席での雑談も可能です。
33	書架を可動式にして、コンサートなどができる空間を取れるようにして欲しい。	音の問題が解決できないため、他の利用者がいる時間帯でのコンサート開催は困難です。 コンサート等の大きな音を伴う催し物については、近隣施設との機能連携という観点から、町民センターを活用することを前提としています。
34	ミニコンサートができるようにして欲しい。	
35	町民の作品を展示・発表できる所が欲しい。	企画展示用のスペースや、幌内側玄関横の展示用棚を用いた対応が可能と考えます。 町民の創作活動発表の拠点となることは、新図書館の主旨に沿うものと考えますので、可能な限り柔軟に対応するよう努めます。
36	一般町民用の絵画、書、写真、手芸、陶器などの展示コーナー。	

「新しい図書館を考える町民ワークショップ」における参加者からの意見及びその回答

	意見	回答
37	畳のコーナーが欲しい。	新聞雑誌コーナーに、可動式の畳の小上がりを設置します。
38	ネット配信動画や名作映画を見ることが できる15～20名程度の映写室。	多目的室にスクリーン、プロジェクター、小規模の音響設備を整備し、映画上映会等を開催できるようにします。 新図書館では視聴覚ソフトも整備する予定ですが、名作の映画・アニメについては上映権付きのものを購入し、定期的上映会を開催したいと考えています。
39	暖炉が欲しい。	暖炉については、暖房機器としての機能のみならず、温かみを演出するインテリアとしての効果は認めるところですが、本町においては燃料となる薪の確保が困難であることから、設置の予定はありません。
平面図について		
40	駐車場は道路を渡らないほうが安全では。	関係者による協議の中で施設の沢木側に駐車場を設置する案もありましたが、旧包括支援センター及び福祉センター跡地に将来何かしらの施設を建てる際に支障となる恐れがあることから、最初の案では駐車場を敷地の山側に配置することとしました。
41	駐車場が道路をまたがないように。	しかし、皆様からの意見を踏まえて庁内で再度協議した結果、駐車場の位置を、道路を横断しなくて済むよう、建物の沢木側に配置することとしました。
42	行事があることを考慮すると、駐車場の台数が少ない。	町民センターと若草保育所が広い駐車場を有していることから、当面は行事の際には両駐車場を利用する方法で対応したいと考えていますが、旧包括支援センター及び福祉センター跡地に新たな施設が建設される場合には、駐車場が拡張される可能性もあります。
43	施設の周辺に、ふれあい広場、コミュニティ広場、お祭り広場等を整備して欲しい。	施設周辺の活用については、上記回答のとおり将来に改めて検討される余地があることから、現段階ではご要望にある広場等の整備は困難ですので、ご理解願います。
建物及び設備のデザインについて		
44	ガラス張りは必要ないのでは？本が傷む。	明るく開放感のあるフロアとするため、また、オホーツク海を一望できる点を新図書館のアピールポイントとしたいことから、施設北東部に大きな窓を設けることとしています。 本の日焼け防止対策については、図書に貼ってあるカバーフィルムに紫外線を防ぐ機能がある他、書架の配置を工夫したり、紫外線をカットするガラスやフィルムを採用することで万全を期します。
45	玄関を広く明るく開放的にして欲しい。	誰もが気軽に訪れることができる施設となるため、ご要望のとおり玄関の作りを明るく開放的にすることに加え、外から建物内の様子が分かるようにします。

「新しい図書館を考える町民ワークショップ」における参加者からの意見及びその回答

	意見	回答
46	壁を虹色にして欲しい。	壁の色については、全体デザインとの兼ね合いもあることから現時点では未定ですが、児童書コーナーの内装デザインについては、子どもに親しまれるものとなるよう努めます。
47	イスなどに統一感があって欲しい。	内装をデザインする際の参考意見とします。
その他		
48	図書館の名前を公募で決める。	図書館に愛称が必要かどうか検討する必要がありますが、愛称を付ける際には公募を行うこととします。
49	各学校の図書室と連携して欲しい。	現在も、学校への配本や蔵書リストの共有等、学校図書室との連携に努めているところですが、新図書館においては一層の連携強化に努めます。
50	図書館(学校図書館含む)の蔵書データ整備とその活用(相互検索等)ができる機能。	図書館の蔵書データは電算化されており、館内OPACやインターネットによる検索が可能となっていますが、学校図書室の蔵書データについては電算化されていません。図書館で使用している蔵書管理システムの端末を各学校に配備し、学校図書の蔵書データを電算化することで、図書館と各学校図書室の蔵書情報を相互検索することが可能となり、図書館と各学校の図書室との連携が強化されます。しかしながら、機器整備や人員配置等について課題があることから、今後の検討事項とします。
51	小中高が近くにあるので、その近くにして欲しい。利用しやすいと思う。	新図書館の建設地については、「既存の社会教育施設との連携が図りやすい場所」、「誰もが安全に安心して利用できる場所」、「駐車場が確保できる場所」、「新図書館として実現性の高い場所」という4つの条件を満たす必要があり、この条件を満たす場所として旧若草保育所周辺を選定したところです。
52	利用者のことを考えると、現在児童館がある場所のほうが立地場所として良い。	
53	建設地が住宅の多い地域から離れている。	
54	郷土資料展示は、子どもに危険がない作りにして欲しい。	郷土資料の一部はハンズオン展示(触れる展示)とする方向で検討していることから、具体的な展示方法を検討する際には、ご意見に配慮のうえ進めます。
55	将来、老若男女利用ができる保健・健康施設を近くに整備して欲しい。	周辺敷地の活用方法についてのご意見として拝聴します。具体的な内容については、今後、町長部局において検討されるべき事項となります。